

該当番号	意見の要旨	当日の区長コメント（一部抜粋）	所管課補足	議事録該当箇所
1	<p>ごみ問題の原因として、観光客がごみ箱の場所が分からないこと、ごみ箱がないこと、ごみを持ち帰るといったマナーを知らないことが挙げられた。また、ごみが置いてあるからその場に捨てる人が多いという指摘もあった。分別の問題では、曜日ごとの日本語の案内表示はあるものの、海外の方向けの表示がないため、適当にごみを捨ててしまう人がいる。</p> <p>解決策としては、ごみ出しのプレートに英語、中国語、韓国語など多言語で用意することが提案された。これは墨田区の清掃事務所と組んで取り組むべきである。</p>	<p>特に文化の違いの話があり、ルールやマナーを徹底すること、その違いを、区役所も含めてうまく埋めていき、相互理解につなげていくというところは、非常に大事なことであり、分かりやすかった。発信表示というのは、多言語も含めて区の役目だなと感じた。</p>	<p>【観光課】 ごみの問題について、観光客へルールやマナーの啓発を行い、マナー向上を図る。</p> <p>【すみだ清掃事務所】 家庭から排出されるごみの集積所看板については、千葉大学の先生によりデザインを一新したものと令和7年度当初に交換済み（英語、中国語、韓国語併記）。このほか、資源とごみの分け方・出し方冊子についても、英語、中国語、韓国語版を作成しており、ホームページからもダウンロード可能（https://www.city.sumida.lg.jp/kurashi/gomi_recycle/wakedashi_pamphlet/foreignlanguage.html）となっている。また、相談あった不法投棄の多い集積所では、多言語の不法投棄禁止の警告看板設置、排出者が特定できた場合は、戸別の訪問指導も行っている。</p>	3ページ A班
2	<p>押上駅の交通インフラの問題である。ロータリー化や動線の改善、スクランブル交差点化が望まれる。キャリアカートを引き回している人が多く混雑しているため、スクランブル交差点にすればスムーズになるのではないかという意見が上がった。また、緊急車両がすぐに通れない問題や、エレベーターの設置数が少ないことも指摘された。特に、押上駅地下のファミリーマート付近で高齢者や荷物を持った人が困っている。これらの問題については、鉄道会社や道路の管理者に対応を求めたい。</p>	<p>交通インフラ。例えば押上駅の地下だったり、ロータリーを改造してつくったらどうか、こういうお話も具体的に、区の都市整備という観点で、何かできることはないかということを考えさせられる。</p>	<p>【道路・橋りょう課】 鉄道会社、交通管理者である警視庁など関係機関と連携し引き続き課題について検討していく。</p> <p>【立体化推進課】 将来増加する観光需要等を見据え、押上駅を含めた交通基盤のあり方を検討する。</p>	3ページ A班

3	<p>民泊問題である。オーナーと住民の間の情報提供が少ないこと、日本と海外のマナーの違いが問題として挙げられた。解決策としては、オーナーが利用者に対して、ごみの置き場所やシーツの扱い方などを入室時に説明すること、写真で見える化をして原状復帰をしてもらうこと、さらにはペナルティを設けることなどが提案された。これらの取組をオーナーに実施してもらえればよい。</p>	<p>民泊については、ルールやマナー、それから、オーナーさんのしっかりとした運営、こういうものを、我々強めにやっていくことと、写真や見える化というもの、もっと協力をしてもらって、区が主導、または、保健所やいろんなところが主導して、分かりやすく伝える努力をもっとしなければいけないという点においては、大変参考になったと思う。</p>	<p>【生活衛生課】 令和7年12月に民泊による生活環境の悪化を防ぐため、条例を制定・改正。その中で、事業者は施設の周辺住民等に対して、事前に説明会の開催等を行うこと、宿泊者に対して周りに迷惑をかけないように説明し、施設内に掲示等を行うこと等について義務化した。このルールは、令和8年4月1日から施行される。規制内容については、分かりやすいように工夫し、周知に努める。</p> <p>【観光課】 日本と海外の文化の違いについて、観光客ヘルールやマナーの啓発を行い、マナー向上を図る。</p>	3ページ A班
4	<p>騒音については、マナーの問題。マナーを知らないこと、守らないことが主な要因である。特にゴーカートの利用やホテルの利用も課題として挙げた。これらは文化の違いや、住宅密集地であることも関係している。解決策としては、マナーやルールの周知を街中などでも見えるようにしていくこと、そして、文化の違いを知っていくことが大切である。これらの取組は行政だけでなく、例えばゴーカート事業者が貸し出し時にしっかりとルールを伝えるなど、事業者の協力も必要だと考えられる。</p>	<p>騒音、同じようにインフラ、情報発信。同じような観点で、問題抽出もされていると思う。同じように騒音、ゴーカートの話も具体的に出てきて、日本人的な危ないと思う感覚と、それを観光で楽しみに来て、ゴーカートで楽しんでいる感覚、ここをしっかりと詰めていかなきゃいけないというのは、そのとおりだと思う。</p>	<p>【観光課】 騒音について、観光客ヘルールやマナーの啓発を行い、マナー向上を図る。</p>	3ページ B班

5	<p>インフラの課題として、多言語化が不十分であることや、人が1か所に集中してしまう（渋谷駅だと八チ公）の問題が上がった。押上駅では人が広場に広がってしまい、うまく分散していないという指摘があった。</p> <p>解決策としては、人が集まれるような新たなスペースを設けることが提案された。現在、人がいないところにシンボルとなるようなスポットを作り、新しい待ち合わせ場所を作っていくことが考えられる。これらは事業者や行政が取り組むべきである。情報発信の課題として、英語や多言語での発信が不十分であること、特に墨田区の小さな商店の情報発信が不足していることが挙げられた。</p> <p>これに対する解決策として、ピクトグラムの活用、AI、デジタルサイネージの使用、多言語対応できる外国人の採用などが解決策である。これらの取組は主に行政が中心となって進めていくべきである。</p>	<p>それから、八チ公の事例もあり、分散型の観光という視点で、いい指摘をいただいた。情報発信も、小さな商店や墨田区のとて魅力的なお店を、うまくピクトグラムや、情報発信によってつなげていけば、後ほど一極集中もあったが、うまく分散して、墨田区全体に行き渡る観光につながるというような、いい視点もいただいた。</p>	<p>【観光課】 多言語の情報発信については、多言語エリアマップの配布や、墨田区公式外国人アンバサダーによる発信を行っているところである。ご意見も踏まえ、特定の場所に集中している観光客を分散し、区内回遊を図る取組みを検討していく。</p> <p>【産業振興課】 産業振興課では、墨田区商店街連合会と連携して、区内の魅力的なお店を紹介する動画「すみここ」を作成している。本動画は、専用YouTubeチャンネルで公開するとともに、区内施設に設置したモニターで放映し、PRしている。今後も引き続き、墨田区商店街連合会と連携し、区内の魅力的なお店の情報発信を行っていく。</p>	4ページ B班
6	<p>移動の問題。一つ目の移動に関しては、交通手段が移動しづらい場所があり、スーツケースを引いている外国人が多くて通行の妨げになっている。問題の原因として、移動手段がそもそも無い、分からない人がいること、歩きにくい環境があることが挙げられた。解決策として、歩きやすくすること、道を分かりやすく整備する必要がある。また、観光客向けにバスを増やすことも提案された。</p> <p>スーツケースや荷物で移動しにくい問題に関しては、預けられる場所を増やす等、手ぶらの観光を進めることが必要だという意見が出た。これらの取組には行政の力も必要だが、例えば周辺のホテルに協力を依頼して、宿泊者以外でも荷物を預けられるようなサービスの提供なども考えられると話合った。</p>	<p>移動手段のお話で具体的に、スーツケースのガラガラ音は、朝一番であっても騒音にもつながり、移動の邪魔になるというようなお話があった。預ける場所をつくって、そこで預ければという、そういうことをやっている事業者さんに会ったこともあるが、そのようなサービスをしている事業者は少ない。非常に具体的な解決策の提言であると思う。</p>	<p>【観光課】 外国人観光客のスーツケースが通行の妨げとなるようなことについて、観光客へルールやマナーの啓発を行い、マナー向上を図る。</p> <p>【生活衛生課】 手ぶらの観光を進めるにあたり、区内の旅館・ホテル、民泊等宿泊施設に協力を依頼する際には、リストの提供、発信等について協力していく。</p>	5ページ C班

7	<p>課題は一極集中である。スカイツリーなどの特定の場所に観光客が集中してしまうので、他の場所の認知度を増やす必要がある。また、他の場所の予約方法が分かりにくいという問題もあるので、そういった点も解決していく必要がある。個人の商店や職人のお店などをツアー化するという取組も良いのではないかという意見が出た。</p>	<p>それから同じように、一極集中問題があった。特定の場所に人が集中することで、いろんな環境が乱れてしまう。ここは絶対防ぐべきだという意味で、分散型、他の場所をご案内していくこと、移動手段も活用する、いいご指摘をいただいた。</p>	<p>【観光課】 ご意見も踏まえ、特定の場所に集中している観光客を分散し、区内回遊を図る取組を検討していく。</p> <p>【産業振興課】 すみだの産業PRとイメージアップ、地域活性化を図るため「すみだ3M運動」に取り組んでいる。この運動により区内各所で、すみだの産業や歴史に関する製品・道具等を工場・作業場などに展示する「小さな博物館」が25館、工房と店舗の機能を備え、製造と販売が一体化した「工房ショップ」が19店認定されている。これらの「小さな博物館」「工房ショップ」は、観光客の方々等の興味に応じて訪問することができ、区内観光回遊のコンテンツの1つとなっている。</p>	4ページ C班
8	<p>課題は、産業や企業活用があまりできていないという点。大企業でもショールームがない、小さいお店だとオープンでなく知らない人が入りづらい、セキュリティの問題もあるので難しいという話があった。解決策として、墨田区内でショールーム化や、体験コンテンツを増やし、それをブランディングにつなげていく取組が必要だという意見が出た。街中に墨田区のものづくりや伝統芸能などがあふれるようなまちにしているのが良いのではないかという結論に至った。</p>	<p>産業界、特に大企業や、名前の通った企業にも遠慮なく協力を得るという指摘は非常に分かりやすく、墨田区として、自分たちでできる範囲だけを自分の枠の中で探すのではなくて、協力者を増やすというのは、いい解決策につながるのかなというふうに思う。</p>	<p>【観光課】 ものづくりや伝統工芸の効果的なPRや連携した取組を検討していく。</p> <p>【産業振興課】 すみだの産業PRとイメージアップ、地域活性化を図るため「すみだ3M運動」に取り組んでいる。この運動により区内各所で、すみだの産業や歴史に関する製品・道具等を工場・作業場などに展示する「小さな博物館」が25館、工房と店舗の機能を備え、製造と販売が一体化した「工房ショップ」が19店認定されている。これらの「小さな博物館」「工房ショップ」は、区内外の方々が、気軽にすみだのものづくりを知り、接していただくための場所となっており、多くの区内事業者の方々のご協力をいただいている。</p>	4ページ C班

9	<p>民泊に関する課題。これまでの話と同じような内容が多かったが、一つ異なる点があった。それは、住民の方に民泊であることをアナウンスできるようにするということである。具体的には、看板などを出して、そこが民泊であることを明示し、それによって住民の不安を解消する方法を提案する。さらに、その看板には事業主の連絡先なども記載するべきだという意見が出た。</p> <p>また、民泊にはマンションや一軒家など様々な形態があるという指摘があった。特にマンションの場合、外国人の方が右往左往している様子がみられる。そのため、案内図をはっきりと表示し、どの部屋が民泊なのかを徹底して示すべきである。</p>	<p>民泊については、前のグループの中でもいろいろ意見が出ましたが、今回特に強調されていたのは、民泊の存在を住民に明らかに知らせる、というお話かなと思った。民泊が進出してきて、住民に分からないうちに営業が始まり、住民に知らされないまま営業が始まるという苦情もたくさんある中で、堂々と、うちは民泊ですと、ルールを守る民泊ですと表明し、宿泊者にも、きちんと指導をし、連絡先も明確にする民泊であれば、地域との共存共栄も可能になるのではないかと、うーご指摘で、とても分かりやすいお話だった。</p>	<p>【生活衛生課】</p> <p>民泊については、玄関先等見えやすい位置に、連絡先等を記入した掲示をすることが義務付けられている。令和7年度から、旅館住宅宿泊施設調査員を採用し、掲示義務の履行確認、不適切施設に対する指導を強化している。</p> <p>また、令和7年12月に民泊による生活環境の悪化を防ぐため、条例を制定・改正した。その中で、事業者は施設の周辺住民等に対して、事前に説明会の開催等を行うこと、宿泊者に対して周りに迷惑がかけないよう説明し、施設内に掲示等を行うこと等について義務化した。このルールは、令和8年4月1日から施行される。規制内容については、分かりやすいように工夫し、周知に努めていく。</p>	4ページ D班
10	<p>経済の極集中についてである。スカイツリーに行きたいお客様をどのように分散させるかという議論があった。スカイツリーに行きたいお客様はスカイツリーにしか行かないという現状を踏まえ、食事の時間が長くなっていることに着目した。そこで、ラーメンや寿司だけでなく、様々な日本食を小規模な形で提供し、その後、実際のお店を案内するような取組が提案する。</p>	<p>墨田の食だったり、そのほかの魅力的な観光資源を、もうちょっとスカイツリー以外でやってみたらということで、一部やってたりもするが、それもなかなか伝わらない。それから、外国人の人たちに周ってもらえたら、さらなる分散化が期待できるということで、これもいいご指摘だった。食フェスも外国人、または、その観光客向けに大々的にやってみればとご指摘もいただいたが、隅田公園でやっていたりもするので、なかなか発信が届いてないかもしれない。</p>	<p>【観光課】</p> <p>外国人向けに英語対応している店舗を紹介するOishiiSumidaというwebサイトを運営し、パンフレットを配布している。ご意見も踏まえ、特定の場所に集中している観光客を分散し、区内回遊を図る取組みを検討していく。</p> <p>【産業振興課】</p> <p>産業振興課では、墨田区商店街連合会が主催する区内飲食店が出店するイベントを支援することで、区内飲食店の認知度向上に努めている。今後も、墨田区商店街連合会と連携し、イベントを通じて、お店のファンになってもらうことで、お店に直接足を運んでもらえるような機会を創出していきたいと考えている。</p>	5ページ D班

11	<p>スカイツリーのデッドスペースの活用です。特にソラマチ広場をもっと有効活用すべきだという意見がでた。そこでは食フェスの開催や屋台の復活などが提案された。夜の時間帯にスカイツリーを眺める景色や、河川、花畑といった周辺の景観を楽しむようなソラマチ広場を活かした取組が必要だという提案があった。</p>	<p>特徴的なデッドスペースを生かせとご指摘があった。まさに墨田区、川、特にスカイツリーの前の川はなかなか人も歩いていないし、せっかく整備したのにというように、多分地元の意見として、全くそのとおりで、埋もれている魅力を掘り起こし、「頭を使え」というご指摘として受け止めたいと思う。</p>	<p>【観光課】 ソラマチひろばを活用した取組を検討するとともに、イベントを計画する事業者の支援を行っていく。</p> <p>【産業振興課】 東京スカイツリーの催事スペース「SKYTREE SPACE」を活用した、地域ブランド「すみだモダン」催事の開催や墨田区商店街連合会が東武タウンソラマチ社と連携して開催するイベントへの支援を通じて、ソラマチひろばを含むエリアを活用している。今後も引き続き、東武タウンソラマチ社と連携し、ソラマチひろば等を活用して、区内産業（商業）の振興につなげていきたいと考えている。</p> <p>【都市整備課】 スカイツリーの前面を流れる北十間川は、護岸の耐震化に合わせて、隅田川から旧中川までの河川テラス整備を行ってきたが、一部未施工区域があり全体を歩ける状況にはない。今後河川テラスの連続化を進め、スカイツリーから区内各所へ河川テラスで移動ができるよう回遊性を向上して、より多くの方に水辺空間を楽しんでもらえるよう整備を行う。</p>	5ページ D班
----	--	--	--	------------

12	<p>インバウンド観光客と区民の交流がないという点。問題の原因として、言葉が通じないことが最も大きいと考えられる。解決策として、ガイドさんの活用が提案された。墨田区内には日本語学校があるので、そういったところで登録してもらい、アプリで呼び出してスキマ時間を使ってガイドをしてもらうことや、ガイドが常駐しているお店を用意することが考えられる。</p> <p>日本語学校の先生や大学の留学生など、ガイドとして活躍できる人材が多くいるので、行政からの資金提供があれば可能だと思う。</p>	<p>インバウンド観光と地域交流についてお話があった。</p> <p>墨田区が国際観光都市を目指すのであれば、相互理解があり、それをおもてなしの心を持って迎える。一方で観光客の方々は、墨田区のルールの中でしっかり動いてもらう。観光ガイドさんや日本語学校に通う学生、レイクランド大学、こういう人たちを通じてやってみたらという、大変いいご指摘をいただいた。</p>	<p>【観光課】</p> <p>インバウンド観光を推進していくためには、地域との共生が必要であることから、相互理解を促進するため啓発を進めていく。</p> <p>ガイドの活用としては、英語対応できるまち歩きガイドを養成し、インバウンド向けツアーを実施しているため引き続き取り組んでいく。</p>	5ページ E班
13	<p>観光客が朝になると他の地域に行ってしまうという問題である。墨田区は交通アクセスが良いため、浅草や渋谷などに行ってしまうことが原因だと考える。しかし、墨田区には人との交流や体験といった独自の観光資源があるので、そういった価値を転換して活かしていきたいという意見が出た。これらの情報をウェブサイトなどで分かりやすく案内できるようにすることや、アンバサダーの活用も有効である。</p>	<p>それから、寝るだけの観光客対策。これは議会からもご指摘いただいたりもする。観光客の消費額向上も、大きな目的の一つであるため、滞在型観光や墨田区の伝統文化を生かした体験型観光を具体的な提案、これは大変いいお話だった。森山理事長もそこにしっかり力を入れていただいているんですが、さらに選択肢を</p>	<p>【観光課】</p> <p>観光客の墨田区での滞在時間を長くするよう、墨田区公式外国人アンバサダーによる発信を引き続き行うなど、墨田区の魅力を発信していく。</p>	5ページ E班